と云う朝鮮人（秀吉の朝鮮征伐の時来た人）が現在の有田焼の土を発見したから段々すたれて来ました。唐津焼は古くから陶器で、有田焼は堅いカンカンした磁器です。然し、北陸や中国や四国方面で焼物屋のことを「唐津」と云う程ですから、余程盛んに作っていたものでしょう。唐津焼は抹茶々碗が一番愛好され、古い唐津焼の茶碗等は数百万円という大変な値を呼んでいます。

現在お茶が盛んに流行して来たので、唐津焼も大珍重されています。

中里太郎右衛門の陶技

唐津焼御茶碗窯の十一代中里天祐の次男に生れ、昭和二年十二代中里太郎右衛門を襲名し、岸岳古唐津、寺沢古唐津、武雄古唐津等の古い陶器技術を研究して、昭和三十年文部省文化財保護委員会より古唐津陶技の第一人者として、無形文化財として指定されました。

現在ロックフェラー三世の世話により米国中小都市間に巡会展覧している日本工芸展に日本代表として絵唐津皿を出品している。

筑紫琴（つくしごと）

筑紫琴は平安朝末期の公卿が京都から筑紫に移したもので、現在の琴、山田流等の前の流派でありますが、この筑紫流の琴を弾く人が、日本でも殆んど無く、それを受継いで来た人が、唐津市水主町に住む前川礼子さんです。今年六十八才のお年寄ですが、只一人の正統な筑紫琴の伝承者で近く無形文化財に指定されることになっています。

唐津の山笠

唐津神社の御祭は、十月二十九日、三十日の両日ですが、その時、御輿の御供をして街を練

り歩く山笠が現在十四台あります。――昔は十五台ありましたが、今は一台無くなっております。山笠の起りは、刀町の人石崎嘉兵衛が、伊勢参宮の途中京都に立寄り、祇園の鉾山笠を見て、唐津にも作り度いと思い立ち、有志と謀り、赤獅子の山笠を作ったのが始めとされていそです。これが文政二年（今から百四十年余以前）で以后他の町内でも段々作りました。

一、刀町　赤獅子　文政二年九月
二、中町　青獅子　文政七年九月
三、材木町　浦島　天保十二年九月
四、呉服町　義経兜　天保十五年九月
五、魚屋町　鯛　弘化二年九月
六、大石町　鳳凰丸　弘化三年秋
七、新町　蓬莱　弘化三年九月
八、本町　金獅子　弘化四年八月
九、木綿町　信玄兜　明治二年（倉敷町年）

唐津焼
御茶碗窯
文化財保護委員会
無形文化財
十二代
中里太郎右衛門
唐津市町田
電話八〇二番
製作品目
作太郎茶盌
抹茶茶盌
花器酒器
高級食器
長男　忠夫
日展五回入選
朝日新聞社主催現代日本陶芸展招待出品二回
次男　重利
日展三回入選
朝日新聞社主催現代日本陶芸展
松阪屋賞受賞